横浜医学，58，13-16（2007）

原　著

硝子体手術後の眼内レンズ二次挿入の術後屈折変化

孫　鳳　銘

三浦市立病院眼科

要　旨：硝子体切除術後に水晶体の混濁が著しく進行する，また水晶体を温存すると周辺部硝子体の徹底的な処理が難しい，などの理由で超音波水晶体乳化吸引術と硝子体手術を同時に行うことが多い．この際に，眼内レンズ（intraocular lens: IOL）を二次的に挿入することがある．本研究では，二次的に IOL を挿入した症例27例27眼の屈折誤差について，経時的に検討した．つまり，二次的に IOL を挿入した症例（毛様溝固定）の屈折誤差を，挿入後１週間，１ヵ月，３ヵ月，６ヵ月について検討した．その結果，全時期において，嚢内固定と比較し，約1.0diopter 近視側にずれていることがわかった．

また，挿入前の虹彩後癒着の有無，網膜剥離や糖尿病網膜症などの網膜疾患の違いは，術後屈折誤差に影響しなかった．さらに，毛様溝固定も，経時的な屈折変化がなく，安定していることが明らかになった．したがって，毛様溝固定時の IOL 度数の決定の際には，1.0D を減じる必要性が明らかになった．

Key words: ciliary sulcus fixation, secondary IOL implantation, refractive error, aphakic eye, in the bag fixation
毛様溝固定，眼内レンズ二次挿入，屈折誤差，無水晶体眼，嚢内固定